

平成20年度市政懇談会での意見と回答

■子育て支援

意見等の内容	回答	担当課
<p>・若者に住んでいただくためにも子育て支援策は継続してほしい。</p> <p>・財政的に大変なのはわかるが、直接市民に影響のある子育てや教育の施策は切り下げないでほしい。</p> <p>・市議会で子育ての条例改正案が否決されたように、子育てしやすいまちは南丹市の売りである。市の独自施策はできるだけ残していただきたい。</p> <p>・子育て施策により、南丹市に住もうかという声も聞いている。子育て施策の縮小は無理をしてでも止めてほしい。</p> <p>・子宝祝い金や高校生までの医療費助成は全国的にも稀な制度。祝い金だけが子育てではないと思う。金額を下げられても、他の施策、例えば保育料の軽減や住宅に関する施策など横の連携をとってでも子育て支援策は継続してほしい。</p>	<p>・今日の少子高齢化や核家族化が進む中で、子育てに不安を抱く保護者の増加や地域における子育て力が低下しています。一方、子育てに対するニーズは、就学前教育における保育所や幼稚園、家庭における子育て支援など多様化しています。</p> <p>こうした状況の中、今日までの南丹市独自の施策として行ってきた各種の祝金制度も含め、総合的に事業評価を行い、検討を重ねて見直しを行いました。そして、新たに「南丹市子育て支援条例」を制定して、仕事と家庭の両立を進めることを基本とする各種施策を展開することを決めました。</p> <p>今後、一時金的な給付を見直し、社会全体で子育てを支援する仕組みづくりの構築を進めます。</p> <p>・医療費助成制度も、旧町で行われていた施策を合併により全市域に広げましたが、子育て支援の問題やニーズは目まぐるしく変化し多種多様化しています。そのため、一時的な個人給付だけでは解決できない課題となっています。様々な課題や新しいニーズに対応するためにも総合的に事業を見直し、限られた財源の中で継続して行える制度として市の未来を担う子どもたちの育成支援に努めます。</p>	<p>子育て支援課・ 国保医療課</p>
<p>・市の特別職が多すぎると思う。その財源を子育て支援策に回せば良い。</p>	<p>・特別職を含めた人件費については、削減を行っています。現在の特別職は、それぞれ任務を分担して対応しており、合併間もない南丹市の体制のもとでは、なくすことはできません。</p>	<p>総合政策課</p>
<p>・ボランティアグループ「美山子育て支援パートナーズ “よっといで”」と言う組織を立ち上げ、若いお母さんたちの相談相手や子供が集える場の提供を行っている。40～50人が活動できる場所として、保健センターの使用をお願いし活用している。今後も気軽に有効に使えるようお願いしたい。</p>	<p>・子育て支援(親支援)のボランティアグループとして、お母さんの相談や子どもが集える場の提供など、積極的な活動を展開いただきありがとうございます。市の施設である保健センターは、皆さんの健康維持、増進及び疾病予防を促進するための事業実施の拠点として市内4箇所に設置しています。保健センターの使用は、設置目的を逸脱しない内容で行政関係の事業展開の場として、今後も多くの方に利用いただける施設としていきたいと考えています。「美山子育て支援パートナーズ」の活動は、子育て支援課の子育て支援事業として保健センターで実施していただけるよう、調整します。</p>	<p>健康課</p>